

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790100079		
法人名	有限会社 ヘルスサポート		
事業所名	グループホーム若狭の家		
所在地	〒900-0031 那覇市若狭3-4-10		
自己評価作成日	平成27年10月26日	評価結果市町村受理日	平成28年2月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/47/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&JigyosyoCd=4790100079-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ		
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205		
訪問調査日	平成27年11月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

本人らしい生活が出来る様に決まりのないスタイルで役割、分担を決めてその人合った生活が送れる様支援しています。近くには、公園、海があり公園に出掛ける日には、クルーズ船をご覧になり利用者は、満喫しています。地域では、イベントが活潑な為、なんみん祭、文化祭へ参加し、保育園生との交流、地域交流室利用者のサークル仲間達からのお礼で誕生会などで踊って頂いています。

事業所は、法人が地域医療に特化して取り組んでいる地域にあり、法人の支援の下、地域や同一法人事業所間の協力と連携が特徴であると言える。中でも、終末期医療の説明に医師が直接関わって意思を確認する支援などは、利用者や家族が抱える不安や疑問を払拭し、安心して生活や介護、終末期を委ねる機会をつくっている。また、法人が中心になり開催している「地域ネットワーク会議」を定着させ、地域の福祉、防災への取り組み等について関係者間で論議し、検討する事で地域の安心・安全に役立てている。利用者が事業所を自分の居場所として落ち着けるよう、散歩を日常的な活動とし、散歩を支援する当番職員を配置して利用者が次第に落ち着いたことも実践の効果であり、今後も継続した取り組みを期待する。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

確定日：平成28年1月12日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	本人らしい生活の支援をおこない決まりのないプログラムでその人に合ったケアで共有し合い支援しています。	理念は開設時から変更はなく、「地域に根差し」という方針は、法人が事業所所在地の福祉関係に積極的に取り組み、しっかり周知されている。「本人らしい生き方の支援」とは、本人が自由にやりたいことを優先させること、と職員は共有して実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のネットワーク会議で月1回参加し役割の部を決めて地域の自治会長初め民生委員などと交流を持ち活動をしています。	利用者と職員は、恒例の地域行事に参加し、毎月1回は保育園を訪問している。日常的な事業所周辺の散歩は、利用者が地域の方と言葉を交わす機会になっている。地域ネットワーク会議で管理者は環境部門を担当し、防災等の情報収集や共有等に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会長初め民生委員など協力を得て保育園生の誕生会への招待や地域交流室のサークル仲間達のお礼で誕生会などで踊って頂き理解し支援して頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市町村の担当と家族の代表 自治会長 包括職員 民生委員 地域代表など参加し事業所から報告しアドバイスして頂いています。	運営推進会議は定期的に6回開催し、事業所の運営や活動状況、事故や災害対策、外部評価についても報告している。会議での委員間の意見交換や提案等は会議録から確認できるが、利用者の参加は6回中1回と少ない状況となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	利用者からの苦情等で市の職員からアドバイス頂いています。	行政関係者が毎回運営推進会議に参加し、防災や備蓄、苦情対応等で質問や意見交換をしている。市のグループホーム連絡会で行政から制度改定の説明があり、管理者が参加して情報を共有している。事業所は市のポイント制度を活用し、ボランティアを受け入れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会で職員と話し合い理解しており身体拘束しないケアに取り組んでいます。	身体拘束廃止の方針を運営規定で明示し、事業所で研修を2回実施して職員のケアに活かしている。新規利用者が新しい環境に慣れる期間の見守りや散歩担当職員の配置等、利用者の意向を尊重したケアに取り組んでいる。リスクについてもその都度家族と話し合っている。	

沖縄県（グループホーム若狭の家）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	申し送りの際、利用者の精神的・身体的異変などがあれば話しあっています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について勉強会を持っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明し理解を得ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	サービス担当会議に家族が参加し家族からの意見を交換し年1回の親睦会を開催し意見などを取り入れる様にしている。	利用者から直に意見等を聞いたり、表情や動作から推察し、「泣いているから寂しいのでは？」と家族に電話して面会に繋げる等で対応している。家族からは運営推進会議や訪問時、家族会（親睦会）等で職員から声を掛け、意見が引き出せるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、職員との定例会を設け、職員の意見を職場の改善等に反映させている。	職員会議を毎月テーマや担当職員を決めて開催し、業務内容やシフト変更等について話し合っている。管理者は、同一法人内の地域密着型サービス事業所の会議に毎週参加して、課題や要望等について共有し、法人に申請している。法人内での職員の異動はない。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は日常の職員の勤務態度を評価しステップ出来る研修を用意している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会を確保している。		

沖縄県（グループホーム若狭の家）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホーム同志で連携をとり情報共有し合いました、那覇市のグループホーム協会の集まりで情報を収集しサービスの向上に努めています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が安心して生活して頂くために本人の背景を考え馴染みの関係づくりをし安心して生活出来るよう支援しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の来所時は、利用者の近況報告や家族の困っている事に耳を傾け受容共感の姿勢で信頼関係作りを努め話しやすい雰囲気づくりに心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族が必要とするサービスがあれば連携が取れるよう努める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が何を訴えているのか表情、動作などを観察しながら寄り添うケアを行う。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の様子などを報告し家族からの支援アドバイスを頂きより良いケアを出来る様共に支えて行けるよう支援しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の人々や家族との協力が出来るよう関係づくりを行っています。	事業所近隣の出身者は、買い物のついでに自宅近くを通ったり、嗜好品を買うため、店舗のチラシから情報を得て出かける利用者もいる。家族の協力で出身地へ出かけたり、自宅で1日過ごされる利用者もいる。また、信仰している宗教関係者の訪問もある。	

沖縄県（グループホーム若狭の家）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格を把握し気の合ったもの同志の席を決めている。孤立にならないよう声掛けをし、レク参加など利用同士交流が持てる様にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も介護サービス等の情報交換を行うなど、支援しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族の意向を検討している。型にはめるのでは無く、本人らしい生活が出来る様支援しています。	利用者の思い等は直接聞いて把握し、「規則正しい生活リズムを続ける」は日中過ごす場所や軽作業の役割、「歌番組を見たい」は放送されている番組の視聴等、個別計画に位置付けて支援している。把握が困難な場合は家族等からの情報を参考にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人がこれまで歩んできた生活歴を把握し、本人が安心した生活が送れるよう支援しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の出来る事を支援し自立出来る事を心がけ現状把握を大切にしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、介護職員と担当者会議とモニタリングを開催し現状の把握を行い計画を立てる。	個別の介護計画は利用者や家族の意向や要望を反映して作成している。サービス担当者会議やモニタリング等は参加者や期間等を重視して取り組んでいる。個別計画の見直しは、更新時、及び利用開始後3か月目の見直し以外は行われていない。計画は長期と短期の目標が同じ期間となっている。	個別計画の長期目標と短期目標の期間の検討、及びモニタリング結果による利用者の状態変化等に即した介護計画の随時の見直しが望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の利用者の状態は申し送りで情報を共有している。1ヶ月1の定例会などで話し合っています。		

沖縄県（グループホーム若狭の家）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	特に規制せず柔軟な支援にて取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ネット会議に参加し自治会長、民生委員包括など協力関係でいられるよう努めており本人の心身の力が発揮出来る様心がけて支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は家族で選んでいる。そのかかりつけ医と関係を築こうと努力している。	かかりつけ医は全員が協力医となっている。訪問看護は毎週、介護保険の訪問診療は月2回、医療保険の往診の月1回の受診にも対応している。受診の結果は口頭で家族に報告している。緊急時は診察依頼書を発行し、結果は返書を医師からもらっている	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	血圧、体温等のバイタル情報を看護師に伝え、適切な受診や看護が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時情報を提供している。病院の相談員とは、連携を取りやすい関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	サービス開始時に説明を行い 事業所の出来る事を把握して頂いている。実際に重度化した場合は、家族や、医療機関と密に連絡を取り、チームで支援していく予定である。	看取りに関する指針を作成し、サービス開始時に利用者や家族に対して説明している。さらに、終末期医療説明書として、重度化した場合の意思確認書が医師の説明の下で取られている。看取りについては、これからの課題としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ダミー人形、AEDを使い、心肺蘇生訓練を行い実践力を身につけている。今後も継続できるように努める。		

沖縄県（グループホーム若狭の家）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の総合訓練を行っている。それ以外は、自主訓練を、年に数回実施しています。	消防訓練は実施計画書を作成し、消防署立ち合いも含めて昼想定で2回実施している。訓練は3階部分だけの実践になっており、車いす利用者の1階への避難訓練等は実施されず、地域住民の参加協力も得られていない状況である。	法令では夜間の想定訓練も規定されているので、その実施及び地域住民への参加協力依頼が望まれる。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の性格を考慮しその人に合った言葉かけや対応を行っている。	一人ひとりを尊重する姿勢はうかがえたが、調査時の職員の言動は十分とは言えない場面が認められた。トイレのカーテンや居室での排せつ介助時、同性介助等プライバシー保護について、職員への周知徹底及び共有が必要な状況であった。	利用者本位の視点に立ったプライバシー保護についての研修の実施及び職員の共通理解のための日常的な確認の取り組みが望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の声掛を聞けるように工夫し、自己決定を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい支援を行うために本人の好きなこととして頂き決まりのないプログラムで支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容出来ない方はこちらから声掛けを行い出来ない部分を支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りは職員で行うがメニューの要望を入所者から聞き入れ、野菜の下ごしらえなどお願ひしています。	食事は、食材の購入から献立も含めて職員が作り、利用者と一緒に同じものを摂っている。利用者は、食材の下ごしらえや食器洗い、トレイ拭きなどに参加している。時々食事介助が必要な一人以外は、全員自立している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量と水分量をチェックし体重は、月1回測り栄養状態の管理を行っている。		

沖縄県（グループホーム若狭の家）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	拒否される事もあるが基本的には、食後口腔ケアを促し、介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を促している。オムツは出来るだけ使用せず、トイレで気持ちよく出来る様支援している。	排泄は、チェック表を利用し、日中は全員トイレ排泄を支援している。夜間はパット使用の方がいるが、大方はトイレ排泄の支援であり、ポータブル使用者はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動支援を行っている。植物繊維、野菜ジュースや牛乳で調整を行っている。内服薬に頼りすぎないように心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	定期的に決めているが本人が希望すれば毎日でも支援している。入浴を拒否する場合も 間をおいて利用者に合った支援を心掛けています。	入浴支援は、週2回で午前中の実施を基本としているが、日中は希望があればいつでも対応している。全員が一部介助である。入浴を拒否する利用者には、時間をずらして対応している。脱衣場には、洗剤等が手近に無防備に置かれており、配慮が期待される。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調に合わせて、自由に休息が取れるように支援している。昼夜逆転で睡眠がとれない場合があるので夜間だけ睡眠の時間と考えず、寝る時に寝て頂くなど、本人の状態に合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の支援を行っており、服薬に関する勉強会を開催し、内服に関して理解に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を理解し本人に合った支援に努めています。		

沖縄県(グループホーム若狭の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物支援や、公園の散歩など心掛けています。ドライブなども出掛けています。	事業所周辺の散歩は、担当を決めて対応しており、毎日2～3人の支援が行われている。桜まつりや初詣等季節に合わせた外出、天ぶらを食べに瀬長島、奥武島へ等、全員で外出している。個別の外出として家族と買い物や外食等に出かけるなどを介護計画に位置付けて支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持、使用を希望される方には対応しており、買い物にも同行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、支援を行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルの位置を最適な位置に配置し、採光、室温に配慮するなど、快適に過ごせるよう工夫している。	事業所は3階にあり、共用空間としての居間兼食堂は手狭であるが、利用者の席のすぐ後ろに厨房があり、食事作りの音や匂いが食欲をそそる環境にある。壁には利用者の作品が掲示され、ほとんどの利用者はテレビを見ながらテーブルの周りで過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂にて他者との交流をしたり、一人になりたい時居室に戻り過ごされる等。思い思いに過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族に相談し、実際に使った物を持ち込んで頂くようお願いし、過ごしやすい環境作りに努めている。	居室はすべて洋間で、ベッドと箆笥が設置され、利用者の状況によって場所を工夫している。椅子や机、宗教関連の物や家族写真等が持ち込まれているが、全般的に家庭的な雰囲気になく、馴染みのもの等によるその人らしい居室づくりの工夫に期待したい。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	自立した生活できるよう手すりの設置やトイレの位置が分かるようにマークをつける等の工夫しており、安全な環境を心掛けている。		